

# 安全データシート

作成日: 2015/03/01

改訂日: 2019/10/01

## 1. 製品及び会社情報

製品名:	工業用40%尿素
会社名:	高杉製薬株式会社
住所:	福岡県糟屋郡粕屋町仲原2617
電話番号:	092-621-1231
FAX番号:	092-621-6269

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類: GHS分類基準に該当しない。

### 重要危険有害性

物理的及び化学的危険性:	該当せず/分類対象外/分類できない
健康に対する有害性:	該当せず/分類対象外/分類できない
環境に対する有害性:	該当せず/分類対象外/分類できない

### GHSラベル要素

絵表示又はシンボル:	該当なし
注意喚起語:	該当なし
危険有害性情報:	該当なし

GHS分類区分は付与されないが取扱い時には以下の点に留意する。

### 注意書き:

[安全対策]	環境への放出を避けること。
[応急措置]	飲み込んだり、吸入又は接触したか、又はばく露の懸念がある場合、気分が悪いときは医師の手当てを受けること。
[保管]	特になし
[廃棄]	内容物/容器を国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

他の危険有害性: 情報なし

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分:	混合液(水溶液)	
化学名又は一般名:	尿素	
別名:	ウレア	
濃度又は濃度範囲:	尿素 $\geq$ 40.0 %	水 $\leq$ 60.0 %
化学式又は構造式:	$\text{CH}_4\text{N}_2\text{O}$ 、 $(\text{NH}_2\text{CONH}_2)$	$\text{H}_2\text{O}$
分子量:	60.06	18.02
CAS登録番号(CAS RN®):	57-13-6	7732-18-5
官報公示整理番号(化審法・安衛法):	(2)-1732	該当しない
危険有害成分:	特になし	

## 4. 応急措置

吸入した場合:	異常を感じたり、気分が悪くなった場合には、直ちに空気の新鮮な場所へ移動する。症状変化が現れた場合には、直ちに医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合:	汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぐ。付着した製品を拭き取り、水や微温湯で洗い流しながら石けん(鹼)を使って良く洗い落とす。

眼に入った場合:	外観に変化が見られたり痛みがある場合は、速やかに医師の手当てを受ける。 直ちに清浄な水で数分間洗浄する。 洗眼の際、まぶたを指で良く開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行きわたるように洗浄する。
飲み込んだ場合:	コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。 異物感が目に残るようであれば、速やかに医師の手当てを受ける。 無理には吐かせないこと。 意識がない場合、口から絶対に何も与えない。 口をすすぐ。 保温して速やかに医師の手当てを受ける。
応急措置をする者の保護:	保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具、安全靴などの適切な保護具を着用する。

## 5. 火災時の措置

消火剤:	棒状水、霧状水、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤:	情報なし
火災時の特有の危険有害性:	当該製品は火災時に刺激性もしくは有毒なガスを放出する。
特有の消火方法:	情報なし
消火を行う者の保護:	消火作業の際は、状況に応じた保護具(自給式呼吸器、防火服、防火面など)を必ず着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、; 保護具および緊急措置	漏出時の処理を行なう際には、保護具(「8.ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用する。
環境に対する注意事項:	盛土等で困って河川、水田等への流出を極力防止する。 万一大量に流出し、一般市民、水棲生物への影響が懸念される場合には、直ちに 関係官庁、供給者へ連絡する。
封じ込め及び浄化方法及び機材:	漏出物はできる限り空容器に回収する。 少量の場合は、ウエス等に吸収させる。 多量の場合は、土砂等で流れを止める。
二次災害の防止策:	特になし

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策:	「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を参照。 吸入、皮膚への接触を防ぎ、又、目に入らないように適切な保護具を着用する。 取扱いは換気の良い場所で行うようにする。
安全取扱い注意事項:	全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
衛生対策:	取扱い後は、手をよく洗うこと。 この製品の使用中は飲食や喫煙をしないこと。
保管	
安全な保管条件:	保管場所の床は、床面に水が浸入/浸透しない構造とする。 保管場所には、必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 屋内貯蔵を原則とする。
安全な容器包装材料:	ステンレス、ポリエチレン、ポリプロピレン
混触禁止物質:	強酸化剤

## 8. ばく露防止及び保護措置

【本品についてのデータはないため、尿素(CAS RN®:57-13-6) 100 %の情報を示す】

管理濃度:	設定されていない
許容濃度	
日本産業衛生学会:	設定されていない
米国産業衛生専門家会議(ACGIH):	設定されていない
設備対策:	取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。 密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用しなければ取扱ってはならない。
保護具	

呼吸器の保護具:	保護マスク(必要に応じて着用)
手の保護具:	保護手袋
眼の保護具:	安全ゴーグル、保護眼鏡、保護面
皮膚及び身体の保護具:	保護衣、安全靴、安全帽、保護前掛け

## 9. 物理的及び化学的性質

【本品についてのデータはないため、尿素(CAS RN®:57-13-6) 100 %の情報を示す】

物理的状态	
形状:	結晶又は結晶性の粉末
色:	無色～白色
臭い:	無臭
臭いのしきい(閾)値:	データなし
pH:	8-10 (水溶液)
融点・凝固点:	132.5-134.5 °C
沸点、初留点及び沸騰範囲:	データなし
引火点:	データなし
燃焼性(固体、ガス):	データなし
爆発範囲:	データなし
蒸気圧:	0.0016 Pa (25 °C)
蒸気密度:	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1):	データなし
比重(密度):	1.33
溶解度	
水に対する溶解性:	1.079 g/L (20 °C)
n-オクタノール/水分配係数:	log Pow = -3.00 ~ -1.54
自然発火温度:	データなし
分解温度:	135 °C
粘度(粘性率):	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性:	通常の手扱いにおいては安定
化学的安定性:	データなし
避けるべき条件:	高温、直射日光
混触危険物質:	強酸化剤
危険有害な分解生成物:	窒素酸化物、アンモニア
危険有害反応可能性:	データなし

## 11. 有害性情報

【本品についてのデータはないため、尿素(CAS RN®:57-13-6) 100 %の情報を示す】

急性毒性	
経口:	区分外 ラット LD <sub>50</sub> : 14,300 mg/kg
経皮:	区分外 ラット LD <sub>50</sub> : 8,200 mg/kg
吸入:	分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	区分外 粉じんと接触により、皮膚の物理的な刺激又は乾燥が起きる可能性がある。
目に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:	区分外 粉じんが目に入ると、機械的な刺激が起きることがある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	
呼吸器感作性:	分類できない
皮膚感作性:	区分外
生殖細胞変異原性:	データなし
発がん性:	分類できない
生殖毒性:	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	分類できない
吸引力呼吸器有害性:	区分外

その他の情報: データなし

**12. 環境影響情報**

【本品についてのデータはないため、尿素(CAS RN®: 57-13-6) 100 %の情報を示す】

生態毒性	
水生環境有害性(急性):	区分外 魚毒性(Barilius barna); $LC_{50} > 9,100$ mg/L/96hr オオミジンコ(Daphnia magna); $EC_{50} > 10,000$ mg/L/48hr 藻類(Desmodesmus subspicatus); $EC_{50} > 10,000$ mg/L/72hr
水生環境有害性(長期間):	区分外
残留性/分解性:	情報なし
生体蓄積性:	情報なし
土壤中の移動性:	情報なし
オゾン層破壊物質:	当該物質はモントリオール議定書の附属書に記載されていない。

**13. 廃棄上の注意**

残余廃棄物:	関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 許可された廃棄物処理施設で廃棄物を処理する。 廃棄物処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分に告知の上、処理を委託する。
汚染容器及び包装:	空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分すること。 使用済みの容器は、他の用途に使用しないで適切に廃棄すること。

**14. 輸送上の注意**

国際規制	
国連番号:	該当しない
品名(国連輸送名):	該当しない
国連分類:	該当しない
容器等級:	該当しない
海洋汚染物質:	該当しない
国内規制	
陸上輸送情報:	該当しない
海上輸送情報:	該当しない
航空輸送情報:	該当しない
特別な安全対策:	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
緊急時応急措置指針番号:	該当なし

**15. 適用法令**

労働安全衛生法:	該当しない
消防法:	該当しない
毒物及び劇物取締法:	該当しない
大気汚染防止法:	該当しない
土壌汚染防止法:	該当しない
水質汚濁防止法:	該当しない
海洋汚染防止法:	有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)
船舶安全法:	該当しない
航空法:	該当しない
道路法:	該当しない
化学物質管理促進法(PRTR法):	該当しない
外国為替及び外国貿易法:	輸出貿易管理令別表第1の16の項【HS3102.10】

**16. その他の情報**

参考文献:

1. 国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版 第2集 化学工業日報社(1994)
2. 通産省公報 平成5年12月28日
3. Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH(1985-86)
4. Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM(2008)
5. 製品評価技術基盤機構 <http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html>
6. GHS分類集(I)(II):(社)日本化学物質安全情報センター
7. 化学品法規制検索システム 日本ケミカルデータベース株式会社

この安全データシートは、各種の文献等に基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありません。また、作成の時点においての知見によるものです。注意事項は通常の取扱いを対象としたもので、特殊な条件下で使用する場合は、その環境に応じて安全対策を講じてください。含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証もするものではありません。